

令和元年度 小学校教育課程研究集会 外国語活動・外国語科

令和元年7月25日(木) 県立教育研究所
奈良県教育委員会事務局学校教育課 義務教育係
指導主事 松本 彩恵

外国語教育が変わります！

文部科学省HPに掲載

文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課



「大学入試」

- ・「聞く・読む・話す・書く」**4技能を評価**
- ・**外部検定試験**を活用

2022 「高等学校」

- ・「聞く」「読む」「話す（やり取り・発表）」「書く」を総合的に学び、**発信力を高める**

2021 「中学校」

- ・**授業は外国語で行う**が基本
- ・目標と言語活動の高度化

2020 「小学校」

3、4年生「外国語活動」

- ・週1コマ（年間35単位時間）
- ・「聞くこと」「話すこと」
中心に外国語に**慣れ親しむ**
- ・“Let's Try!”やデジタル教材配布

5、6年生「教科」

- ・年間70単位時間
- ・段階的に「読むこと・書くこと」
- ・コミュニケーション能力の**基礎**

平成25年度 学習指導要領実施状況調査 中学校2年生

2014年1月14日—3月7日実施

- ・中学校の学習指導要領の検証のため、指導要領の改善事項を中心に、各教科の目標や内容に照らした生徒の学習の実現状況について調査研究を行い、次期指導要領改訂の検討のためのデータ等を得る。

中学生のコウジ(Koji)と日本に来たばかりのカナダ人の留学生マイク(Mike)の会話です。それぞれく)内に示された場面での会話で、イラストはその様子を表したものです。

A: ()内の指示にしたがって____の引かれた文を書きかえ、会話が成り立つようにしなさい。

48.9%

Koji: You speak Japanese very well. You studied it in Canada.
(疑問文にしなさい。)

Mike: Yes. I studied it everyday.

B: ____に必要な英語を書き、会話が成り立つようにしなさい。
その際()内の語を適切な形で用いること。

20.7%

Koji: You speak Japanese very well. _____ it in Canada?
(study)

Mike: Yes. I studied it everyday.

外国語活動

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

小外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

中外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次の通り育成することを目指す。

高外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

「言語活動」に関して

「現行中学校学習指導要領 外国語 解説」

「言語材料についての知識や理解を深める言語活動から、考えや気持ちなどを伝え合う言語活動まで～」

「小学校外国語活動・外国語科 研修ガイドブック」

「言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では～」

「言語活動」に関して

「小学校学習指導要領 外国語活動・外国語」の記載（抜粋）

- コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定
- 簡単な語句や基本的な表現を用いて
- 具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して
- 児童の興味・関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科など、他教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたり

「言語活動」に関するキーポイント

コミュニケーションを行う
目的、場面、状況の設定

簡単な語句や基本的な
表現を用いて

コミュニケーションの
目的や場面、状況など
を、児童が意識して

既習語句や表現の活用

外国語によるコミュニケーションに
おける見方・考え方を働かせながら

他教科等で児童が学習した
こと、学校行事で扱う内容

児童の興味・関心に
合った

「言語活動」に関して

「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語」の記載（抜粋）

- 簡単な語句や基本的な表現を用いて、友達との関わりを大切にした体験的な言語活動
- 相手意識と中身のある活動
- 児童が進んでコミュニケーションを図りたいと思うような、興味・関心のある題材や活動を扱う
- 決められた表現を使った単なる反復練習のようなやり取りではなく、伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーションを大切にしたい
- 相手の思いを想像し、伝える内容や言葉、伝え方を考えながら、相手と意味のあるやり取りを行う活動を様々な場面設定の中で行う
「伝え合う」ことへの意欲が高まるような場面設定や題材の選択
- 児童が興味・関心をもつ題材を扱い、聞いたり話したりする必然性のある体験的な活動を設定することが大切

「言語活動」に関して

「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語」の記載（抜粋）

- 活動形態についても、ペアやグループ、学級全体に向けた発表
- 指導者から児童、児童から指導者、また児童同士など、多様な形態で活動
- 児童にとって身近で具体的な場面設定の中で行い、「誰に」、「何のために」という、「相手意識」や「目的意識」をもって、質問したり答えたりする必然性のある活動
- 児童が、自己理解・他者理解を深め、コミュニケーションの楽しさを実感できるように
- 児童が本当に伝えたい内容を話したり、友達の話す内容を聞いたりすることができる場面を設定

「言語活動」に関して

「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語」の記載（抜粋）

- 児童が言語活動の目的や、使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために、必要な語句や文などを取捨選択
- 児童に気付かせたり考えさせたりする

「言語活動」に関して

相手意識、中身のある

子供が興味・関心のある題材や活動

身近で具体的な場面設定

ペアやグループ、学級全体に向けた発表

指導者から児童、児童から指導者、また児童同士

決められた表現を使った単なる反復練習のようなやり取りではなく

本当に伝えたい内容

相手の思いを想像し、伝える内容や言葉、伝え方を考えながら

意味のあるやり取り

「伝え合う」ことへの意欲が高まるような場面設定や題材の選択

伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーション

聞いたり話したりする必然性

「誰に」、「何のために」という、「相手意識」や「目的意識」

質問したり答えたりする必然性

自己理解・他者理解を深め、コミュニケーションの楽しさを実感

小中高連携の必要性

言語材料に見る小中高の接続

中学校学習指導要領 外国語

ウ 語、連語及び慣用表現

(ア) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、**小学校で学習した語に1600～1800語程度の新語を加えた語**

エ 文、文構造及び文法事項

小学校学習指導要領第2章10節 外国語 第2の2の(1)の
エ及び次に示す事項について、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。

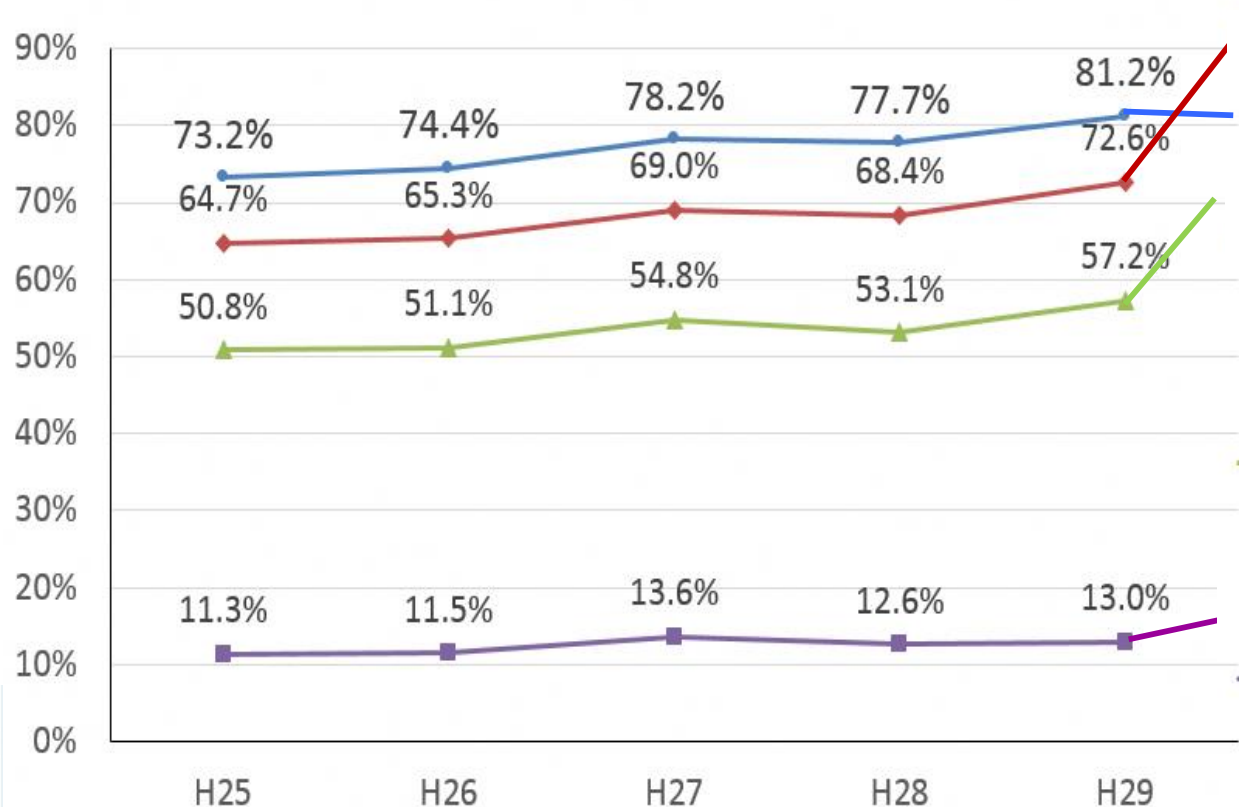
小中高連携の必要性

2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
5年活 35H	6年活 50H-70H	中1	中2	中3	高1	高2	高3
4年	5年活 50H-70H	6年活 50H-70H	中1	中2	中3	高1	高2
3年	4年活 15H-35H	5年活 50H-70H	6年科 70H	中1	中2	中3	高1
	3年活 15H-35H	4年活 15H-35H	5年科 70H	6年科 70H	中1	中2	中3
		3年活 15H-35H	4年活 35H	5年科 70H	6年科 70H	中1	中2
			3年活 35H	4年活 35H	5年科 70H	6年科 70H	中1

小・中学校の連携に関する状況

○小中連携に取り組んでいる中学校は80.6%で、平成29年度より0.6ポイント下がっている。

小学校との連携に取り組んでいる中学校の割合



80.6%

小中連携に取り組んでいる中学校の割合

90.2%

授業参観、年間指導計画の交換などの情報交換

70.0%

授業参観後の研究協議、中学校教員による小学校での授業などの交流

16.4%

小中連携したカリキュラムの作成

奈良県小学校教科等指導資料について

The screenshot shows the official website of the Nara Prefecture Education Commission. At the top, there is a navigation bar with the Nara Prefecture logo and the text "奈良県 ようこそ" (Nara Prefecture Welcome). Below this is a search bar and a menu with categories like "トップページ" (Home), "奈良県の紹介" (Introduction to Nara Prefecture), "暮らし・環境" (Living/Environment), "教育・人権・交流" (Education/Human Rights/Exchange), "保健・医療・福祉" (Health/Medicine/Welfare), "しごと・産業" (Work/Industry), "県政情報" (Prefectural Information), and "県の組織" (Prefectural Organization). The breadcrumb trail indicates the current location: "トップページ > 県の組織 > 教育委員会事務局 > 奈良県教育委員会".

The main content area is titled "奈良県教育委員会" (Nara Prefecture Education Commission). On the left, there is a profile of the Education Commissioner and a "メッセージ" (Message) section. Below that is a sidebar menu for the "奈良県教育委員会" with items like "教育長メッセージ" (Education Commissioner's Message), "教育委員会概要" (Education Commission Overview), "教育調査統計資料" (Education Survey Statistics), "教育委員会発行刊行物" (Publications from the Education Commission), "入学情報" (Enrollment Information), and "採用・募集" (Recruitment).

The main content area features a "重要なお知らせ" (Important Notice) section with a link to "奈良県教育委員会とは関係のないi-modeページについて" (Regarding i-mode pages not related to Nara Prefecture Education Commission). Below this is a "新着情報" (Latest News) section with a list of recent news items, including dates and titles such as "2016年03月08日 大学生等による不登校児童生徒支援事業・マッチングコーディネーターの新規採用発表" (March 8, 2016: Announcement of new hires for support staff in a project for students with school refusal).

Two blue callout boxes with white text and arrows point to specific elements. One box on the left says "クリック" (Click) and points to the "まなび" (Learning) link in the footer. Another box on the right says "このバナーをクリック" (Click this banner) and points to a banner for "まなび 奈良" (Learning Nara) in the footer.

The footer contains several logos and links, including "まなび 奈良" (Learning Nara), "なら先生の館" (Nara Teacher's Room), and "ならまなびねと" (Nara Manabine to).

奈良県小学校教科等指導資料について

学力向上支援サイト

奈良県教育委員会事務局学校教育課

まなびー奈良

CONTENTS

[トップページ TOP PAGE](#)

[活用方法](#)

[各種データ DATA](#)

[研究会等活動報告](#)

まなびー奈良では、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を育むため一つの方法として各種問題や授業モデルの動画を配信し、学力向上の支援をしています。

問題編

全国学力・学習状況調査の調査結果から明らかになった課題に関する問題がダウンロードできます。ダウンロードしたい教科をクリックしてください。

[→小学校国語](#)

[→小学校算数](#)

[→小学校理科](#)

[→中学校国語](#)

[→中学校数学](#)

[→中学校理科](#)

[各種ダウンロード](#)

[指導案例](#)



解答編



• 問題に対する解答がダウンロードできます。ダウンロードしたい教科をクリックしてください。

奈良県小学校教科等指導資料について

第5学年 外国語科

単元名 『紹介しよう！素敵な友達！』

単元（題材）の目標

自分やクラスの友達について、友達のできることやできないことをインタビューしたり、紹介したりすることができる。文字には音があることに気付く。

(知識及び技能)

自分やクラスの友達について、できることやできないことを、考えや気持ちも含めて伝える。

(思考力、判断力、表現力等)

インタビューされる人や聞き手に配慮しながら、自分やクラスの友達についてできることやできないことなどを紹介し合おうとする。

(学びに向かう力、人間性等)

指導のポイント

この単元では、外国語を通じて、自分の内面を表現する。また、自分の周囲にいる人の新しい一面を発見し、それを紹介することによって、人と関わる喜びを体験する。

各時における指導のポイント

- 第1時では単元への見通しを持つために、最終時に「素敵な友達を紹介しようクイズ大会」を聞くことを伝え、そのために今日から練習していくことを伝える。
- 第2～第3時では、動作を表す表現に十分慣れ親しみ、canを用いた表現を児童が使えるようにしていきたい。チャッツや歌、ゲームなどを用いて、英語の音声を繰り返し聞いたり、書いたりして、段階的に使えるようにしていく。
- 第4～第5時では先生にインタビューする活動を通して、インタビューの仕方や答え方についてのモデルを児童に提示する。自分が友達にインタビューすることも想定させながら、本単元で学習した表現や英語の表現について振り返る。
- 第6～第8時では友達にインタビューする活動を通して、相手意識をもって活動を行うことを学ぶ。第6～第7時は「素敵な友達を紹介しようクイズ大会」の準備を行う。本節を想定しながら、どうすれば友達の良さを紹介できるのかを考え、インタビューを行うように指導する。また、準備にはグループ活動を取り入れ、対話を通して内容が深まるように努めていく。グループ活動では自分に自信が持てない児童にも配慮し、互いに良いところを伝え合う良さを児童に指導していきたい。
- 本指導案では第8時のクイズ大会で紹介する相手学年の児童、特に低学年の児童と設定した。5年生の素晴らしい場所を低学年に伝えることによって5年生を身近に感じてもらうとともに、「5年生のお兄ちゃん、お姉ちゃんってスゴイ！」と感じてほしい。外国語を使ったコミュニケーションの楽しさを5年生と一緒に経験することから、低学年にとってはこれから始まる外国語活動への期待が高まるという効果もある。また、異学年の児童との交流が難しい場合には、同学年の児童を紹介する。参観で保護者を対象に行う、地域の方に紹介する、ALTに対して紹介するなど活動が考えられる。また、児童の姿態に応じて架空の人物を紹介するなどの活動に替えることも考えられる。

振り返り

本単元では3度の振り返りを計画している。1度目は第3時の最後、自分が学んだ表現について振り返り、自分が使える表現を児童も教員も確認しておきたい。2度目は第5時の最後、インタビューのあらましについて理解した児童が本単元のクイズ大会に向けてどのように考え、準備しているのかを確認したい。3度目は第8時の最後、自分たちが準備したクイズ大会についてどのような手紙を持ち、自分自身が単元を通して何を学んだのかを明確にさせたい。

深い学び

深い学びを実現するためには、今回の活動がただ楽しいだけでなく、決への意欲につながるものとするのが大切である。自分のことを知ってもらおうという喜びを知るだけでなく、「もっと知りたい。もっと多くの人に伝えたい。」と児童が感じるのが大切である。「スゴイ！」と無邪気に伝えてくれる低学年児童を想定しているのもそのために。実物を用意することも聞き手のリアクションを引き出すために役立つ。準備段階では低学年児童を紹介することを児童に意識させ、ジェスチャーや分かりやすい言葉を使わせるなどの相手意識を育てる。クイズ大会の場面では英語が伝わった喜びを表現できるように教師の言葉かけなど、適切な支援を通して、児童の学びを深めていきたい。

単元（題材）の指導計画

	児童の学習活動	指導上の留意点
1	単元の見通しを持つ。動物当てクイズをし、canを用いた表現に慣れ親しむ。	最終時に「素敵な友達を紹介しようクイズ大会」をすることを伝える。書く指導を行う際は、音声でたくさん繰り返し発音し、ゆっくりと文字と音の学びを深めるように留意する。
2	canを用いた表現を聞き、考えてクイズに答える。	表現のすべてを聞き取るのではなく、部分に関心したものをから推測すること大切さを伝える。
3	友達に尋ねてみたいことを考え多くの友達にインタビューを行う。振り返り①を行う。	インタビューのやり取りを通して、書庫で人とやり取りすることの楽しさを体感させる。振り返り①ではこれまでに学んだ表現を振り返り、児童が使える表現について確認させる。
4	HeやSheを用いた表現に慣れ親しむ。先生のできることを予想し、インタビューを行う。	先生にインタビューを行う際は英語の表現についても振り返り、使えそうなものはないか探すことよい。
5	4時で行ったインタビューをもとに「先生インタビュークイズ」を作り問題を出す。振り返り②を行う。	楽しいクイズ大会となるようにチーム制などにして答える活動を楽しめるようにする。振り返り②では、先生がインタビュークイズを出す際にどのような工夫をしているのかについて振り返り、自分がクイズを作成する際に参考にさせたい。
6	グループ内で協力し、インタビューされる人に配慮しながら互いにインタビューを行い、発表の準備を行う。	友達が異学年から「スゴイ！」と書ってもらえるためのクイズ作りを意識させる。インタビューを通して互いの長所に気づかせる。また、難しい内容をクイズにしたいと児童が考えたときには、言葉に頼らない表現法についても考えさせる。
7	インタビューの結果を整理し、クイズ大会の準備をする。クラス内でクイズ大会の練習を行う。	クイズで使うポスターなどを作成し、クイズが伝わりやすくなるように工夫させる。また、クイズ大会の練習としてクラス内で発表練習を行い、児童相互に良いところや工夫しているところを伝え合うように指導する。
8	「素敵な友達を紹介しようクイズ大会」を行い、聞き手に配慮しながら、自分やクラスの友達についてできることを紹介する。振り返り③を行う。	聞いてくれている児童の反応についてグループのほかのメンバーが観察し、グループに還元できるようにする。振り返り③では自分が紹介した相手や、クイズに答えてくれた児童の様子について振り返り、自分が作成したクイズが人を喜ばせたことを確認させていきたい。

クイズ大会における書庫活動例

児童A "H! I'm A." 児童B "H! I'm B." 児童C "H! I'm C."
 出題者 "Who is he? Hint 1. He can jump high. Hint2. He can drink water very much. Hint3. He can ride unicycle very well. Who is he?"
 出題者 "He is A." (異学年児童相手) "He is B." (相手) "He is C." (相手)
 出題者 "Answer is B."
 出題者 "B can jump high." (Bは高くジャンプをする。)
 出題者 "B can drink water very fast!" (Bはコップ1杯の水を素早く飲む。)
 出題者 "B can ride unicycle very well." (Bは一輪車に乗る。)
 この出題者の答え合わせ中、AとCは聞き手の児童の様子をよく観察する。出題者を交代して、クイズを続ける。

〈参考〉

- 平成25年度 学習指導要領実施状況調査(国立教育政策研究所)

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/cs_chosa.html

- 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック(文部科学省)

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm

- 小学校教科等指導資料 外国語・外国語活動

<http://www.pref.nara.jp/52186.htm>